

編集を終えて

■獅子奮迅の活躍だった他の3人に比べると編集委員は殆ど名前だけだったのであまり偉そうなことは書けません、とにもかくにもようやく出来上がって良かったです。以前どこかに書いたような気もしますが、団体でしか行動できない、自分の意思の表現が下手、独立性や想像力に欠ける、といった(相も変わらず横行する)ステレオタイプとはひと味もふた味も違った日本人が百年も前からこんなに色々居たんですよ、という内容になったと思います。そしてまた今日のオーストラリアの礎となったこんなにさまざまな分野で日本人は貢献してきたんですよ、という点からも誠に有意義な出版物になったと思います。このような書の刊行の一端をお手伝いできて大変幸運です。(麻生雄介)

■これまで、オーストラリアにおける日本人の足跡については、断片的な情報しかもっていませんでした。当然のこととして、オーストラリアの正史における我々の先達に関する記述は、ほとんど皆無といっている状況です。こうした現況を鑑み、日々オーストラリアで足跡を記している日本人の責務として、既に一世紀以上に及ぶ先達の過ぎ来し方の記録をまとめ、後世に伝えようということで本誌発行を呼びかけました。言うは易く、行方は難し。編集委員諸氏、各日本クラブのコーディネーター各位、書き手の方々、そして支援して下さった多くの皆さんに引っ張っていただき、編集後記にまで至ることができたことに心から感謝を申し上げます。皆さん、本当にありがとうございました。生み出した者の手を離れ、本誌が一人歩きをして個々の読者と無二の遭遇をしてくれることの願いの背後で、これまでの2年間で輝いています。(記念誌編集長：佐藤寿治)

■1980年に、東京からシドニーに移り住んで18年、目に触れては溜め込んできた日本人関係の書籍や資料が、記念誌の編纂が進むと共に自分の中でも形を整えてきた。寄稿された多くの原稿を読ませて頂いて、新しい沢山の発見があった。私個人としても、寄稿された方々には、本当に感謝申し上げたい。5月19日、65歳の誕生日を迎えた。7月には、移住以来勤務してきたAGL社を退職する。間近に迫った21世紀は、地球温暖化、環境汚染、オゾン層破壊、資本主義の行き詰まり、食糧不足等など、波乱含みである。これからの10年は、過去の20年、30年のスピードで変化して行くに違いない。記念誌で振り返った130年を踏まえて、これからの人生を傍観者としてでなく、波乱の流れに身を晒して、自分なりの未来史のページを重ねて行きたい。(統括コーディネーター：保坂佳秀)

■あしかけ2年に及ぶ長かった編集作業もようやく終わり、ホッと一息。本誌を読むとお分かりのように、特に戦前の移民草創期の人々や、戦中・戦後に日本人ということで差別を受けた方々のお話には感動させられます。今日では新婚旅行やワーキングホリデーの若い世代に特にこのような体験記を是非読んでもらいたいです。100年を超える日本人の移住史があってこそ、いまの私たちの生活があります。そして、「日本人は…、オージーは…」という意識を捨てることによってこれからの生活が始まると思います。日々の生活が歴史を作っていると思うと…嗚呼、気が重い。(水越有史郎)

記念誌編集委員 麻生雄介
佐藤寿治(編集長)
保坂佳秀(記念誌統括コーディネーター)
水越有史郎

コーディネーター クイーンズランド州 寺田満春
ビクトリア州 吉澤通明、ブライス町子
西オーストラリア州 中原武志

原稿入力ボランティア 岡村礼子
鹿沼知恵
北村悦子
庄島美香
長谷川潔
平田まゆみ
谷戸啓子

オーストラリアの日本人——世紀をこえる日本人の足跡

1998年11月30日 初版発行

編集 記念史編集委員会
発行者 佐藤寿治(全豪日本クラブ会長)
発行所 全豪日本クラブ(JCA)
Japan Club of Australia
PO Box 37, Asquith, NSW 2077, Australia
e-mail: camellia@ozemail.com.au
<http://www.ozemail.com.au/~camellia/JCA.htm>
制作 Moshi-Moshi Pages Australia Pty. Ltd.
